

Ⅰ「木育」のねらいと必要性

1. 「木育」とは何か

「木育」は幼児期から原体験としての木材との関わりを深め、豊かなくらしづくり、社会づくり、そして森づくりに貢献する市民の育成をめざす活動です。

例えば、以下に示すような活動は、代表的な「木育」の活動です。「木育」の活動は非常に多様であり、そして学習対象の年齢や活動の場を選ばない、自由度の高い活動なのです。

- ・子どもたちが木と触れあう活動
- ・木を使った遊びやものづくりに親子で挑戦
- ・学校で木材生産（関係）者が木についての出前授業
- ・大人が自分のために趣味で行うものづくり
- ・森林での間伐体験と間伐材の利用についての学習

「木育」は、幼児から高齢者までを対象とした、生涯にわたる幅広い活動です。木についての様々な体験は、単に木についての理解を深めるだけでなく、鋭い感性や自然への親しみ、森林や環境問題に対する確かな理解の基礎を育むものです。木材の温かさややさしさを知らない人からは、木材利用は森林の破壊や環境の悪化ととられがちです。

一人ひとりが考え、行動しなければならない時代だからこそ、木材をよりよく使う知恵と技、そして木材や森林についての知識と行動力、そして私たちの暮らしや文化、伝統の形成に大きく貢献してきた「木の伝統」を受け継ぐ確かな力を育てたい。そんな強いおもいが、「木育」という言葉にはこめられています。



平成18年9月に閣議決定された「森林・林業基本計画」においても、「木育」を『市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、木材利用に関する教育活動』と位置づけています。



2. 充実した「木育」へ

学習する人の年齢や経験に応じた段階を意識することで、従来の木の体験活動が充実した「木育」へとかわります。このテキストでは、「木育」のステップによる活動を推奨しています。

具体的には、次の3つが「木育」のステップと呼ばれています。

触れる活動「触れ、感じる」……………ステップ1

創る活動「創り、楽しみ、学ぶ」……………ステップ2

知る活動「知り、理解し、行動する」…ステップ3

指導者は、多様で自由度の高い「木育」を展開する上で、①誰を対象とするか、②どんな活動を展開するか、ねらいを十分に検討し、明らかにする必要があります。このテキストでは、受講者の発達段階や経験に応じた、「触れる」「創る」「知る」の段階的な取組（「木育」のステップによる活動）による展開、実施の方法を、わかりやすく、具体的な活動例を示しながら解説しています。また、目標設定から事前の準備、安全管理の方法までを見通すことのできる活動計画チェックリスト、活動実施計画書、安全管理チェックシートなど役立つ資料を添付しています。

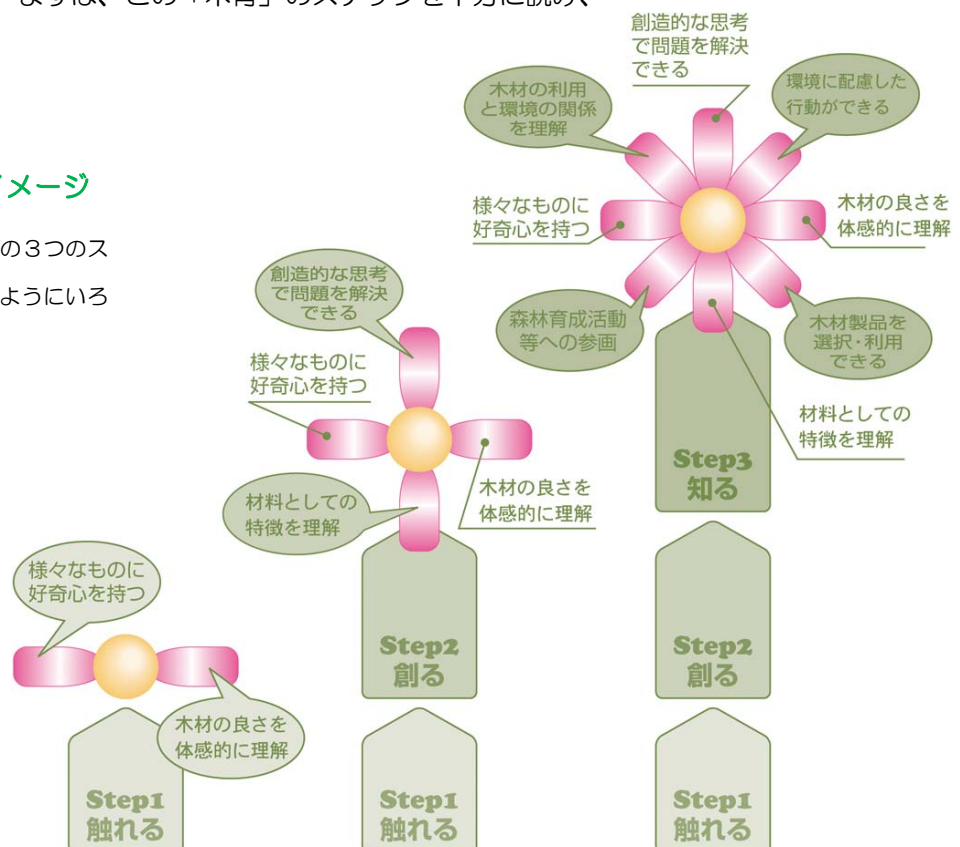
3つの「木育」のステップの役割を理解し、意識することで、これまで行われてきた「ものづくり教室」や「学校での出前授業」などが、充実した「木育」の活動となるのです。まずは、この「木育」のステップを十分に読み、理解しましょう。



- 活動計画チェックリスト (P23)
- 活動実施計画書 (P24～26)
- 安全管理チェックシート (P33～34)

「木育」の進め方のイメージ

「触れる」「創る」「知る」の3つのステップを通じて、花が開くようにいろいろな力が育まれる



ステップ1 触れる活動「触れ、感じる」

活動のキーワード

おもちゃ、遊具、楽しむ、心地よさ、体感的理解、好奇心

ステップ1のねらい

- 木材の良さを、五感を通して体感すること
- 木材をはじめ、森、樹木など様々なものに好奇心を持つこと

「木育」で最も基本となることは、木材に親しみを持ってもらうことです。木材の良さを知り、親しむ経験が、木材を正しく利用し、森林を守ろうとする気持ちのもとになるからです。大量消費社会にあって、日本人が風土の中で大切に扱ってきた木材または木材製品に愛着を持ち、木材利用に肯定的な人間を育てるためには、木材についての理解や利用技術を学ぶよりも前に、受講者の五感に訴える「木の体験」が必要なのです。

指導者として心がけたいこと

- 初めての木体験(Wood Start)を成功させる
- 視覚、触覚、嗅覚など、五感を働かせる活動を取り入れる
- 好奇心を高め、木から見える様々な世界へと導く

「触れる活動」は、木材についての最初の体験（原体験）を形成する重要な役割を果たします。学習する人に木の良い印象を与え、好奇心を高める楽しい活動となるように工夫し、幅広い年齢の受講者が、木について学ぶきっかけを作れることを意識しましょう。

このステップでは説明的な内容や活動から入るのではなく、木の良さを直感的に、体感的に理解できるような活動内容から入ることが大切です。また五感の中でも、普段、あまり意識されることのない、触覚や嗅覚をも働かせることで、印象に残る活動となるように工夫しましょう。

「触れる」対象も幅広く考えることが可能であり、木材製品、例えば楽器や家具、生活雑貨などに「触れる」ことから入ることで、日本の木材文化、地域の伝統、歴史など、様々な木の世界へと導くこともできるでしょう。

「触れる活動」は幼児等の低年齢層のように、木材について初めて触れる人、学ぶ人を対象にする場合に必要なステップですが、子育て中の人や始めて孫を持つ人などを対象とした子育て支援や胎教に関する「木育」でも、有効な取り組みとなります。



「木材が好き」「木材と仲良くしたい」といった気持ちを育て、「木育」の活動を通して出会った人と深め、共感させることが活動のひろがりにつながります。



「木ってなに?」、「どうしてこんなににおいがするの?」「木にはなぜ模様があるの?」といった、小さな疑問や好奇心を高めることは、自然や環境に対する確かな目を育てることにつながり、ひいては身近な木材から、地域の森林や木材、木材利用の未来について考えるきっかけとなります。



子育て支援のツールとして、「すくすく木育」、「Wood Start」はじめまして、「木育」があります。(P39)

ステップ2 創る活動「創り、楽しみ、学ぶ」

活動のキーワード

ものづくり、木の性質、木工具、木製品、創造力、問題解決

ステップ2のねらい

- 手や身体を使った創造的な活動により、手先の器用さや豊かな人間性を高める
- 創造力や課題解決力など、日常生活において非常に重要な役割を果たすと考えられる力を養う

幼児期から大人にいたるまで、木材を使った創る活動は人間の知的能力、身体的能力の発達に優れた効果を発揮するといわれています。構想から設計、製作・評価にいたる「ものづくり」の過程において、自ら考えつつ様々な課題を解決することは、創造的な思考で問題を解決できる人間を育てることにつながります。

我が国では木材を用いた「ものづくり」が盛んに行われてきましたが、現在では、社会環境の変化から、その機会は減少してきています。ステップ2のねらいは、具体的には創造的な思考で問題を解決できること、材料としての特徴を実感させることであり、これを「創り、楽しみ、学ぶ」という活動を通して実現することなのです。

指導者として心がけたいこと

- 技能指導ではなく、創ることで木の良さ、性質を実感させる
- 「ものづくり」を通じて、自ら考え、問題を解決させる
- 無理のない計画と安全の行き届いた環境で実施する
- 作ったものに愛着を持てるように、教材を準備する

「ステップ2 創る活動」は、単にものづくり（道具体験）を目的としたものではありません。「ステップ1 触れる活動」で高まった木材に対する親しみや経験をさらに発展させ、材料としての特徴をしっかりと実感させるための重要な段階です。創ることや道具の使い方に重点を置くのではなく、より良い木材の使い方、木材の良さが理解できるような活動が望まれます。

そこで、技能的な指導、支援だけに終始するのではなく、木材の良さを確認したり、木材の科学的な特性等に対する好奇心を喚起したりすることで、感性を高め、自然に対する素直な尊敬を深めさせることが大切です。また、自分の作ったものに愛着を持てるように、楽しく、役に立つものを作る、創る過程を楽しむ、また完成の喜びを味わわせるなど、活動のねらいや場の雰囲気大切にしていけることが重要です。



木材を使ってものを創るという活動は、知性、情操、技術の調和した人間の全面的発達に役立つものといわれ、150年近くにわたり学校教育の重要な学習活動として位置づけられてきました。それは、木材が比較的軽軟で、加工性に優れているため、その難易度を学習の対象に合わせて容易に調整・選択することが可能であるからです。



木工や木工芸を通じた「木によるものづくり」は、我が国の技術や文化の基礎になっていだけでなく、木の良さを感覚的に、実体験的に深化させる活動です。



工作などを通じて材料をしっかり理解させることがステップ2のねらいです。

「ステップ2 創る活動」では、無理のない計画で、安全の行き届いた環境で実施するために、材料の準備、製品の前処理（キット化）など事前の準備を、受講者の木材についての知識や経験のレベルに応じて検討してください。「創る活動」の計画と実施は、指導者の技術、経験や施設、設備、受講者の年齢層などの状況に大きく依存します。指導者が行う一連の配慮は、継続的に木材に接し、活用しようとする人間を育てる重要な要因です。以上の留意点を十分に理解した上で実施計画を作成してください。

「ものづくり」を行うにあたっては、木材の持つ特性を実感するための科学的実験的な要素（例えば、のこぎりの縦挽きと横挽きの違いや、木口面と木端面の加工性の違い等）を活動に取り入れることにより、材料としての特徴をしっかりと捉えさせることができます。また、「ものづくり」の経験をもとに、先人たちの残した文化遺産（彫刻や建築物等）を技術的な観点から鑑賞し、我が国の文化や歴史に対する尊敬や共感できる素質を育むことができます。

「創る活動」は余暇活動の一つとして個人的に使用する製品を作ることが多くなりがちです。自分のために作ることも楽しいことですが、人に贈ることやみんなで使用することを前提にした製品の設計や製作は、社会的な貢献への意欲、家族間のコミュニケーション、思いやりの育成につながっていきますので、ぜひ取り組みたい活動の一つです。



リンク

IV. 楽しく安全な木育活動の実施のために（P29）



「創る」という行為を、「ものを創る」ことから、「自分の生活を創る」、「地域の環境を創る」など、その範囲を広げて捉え、プログラムを設計できれば、受講者の発達段階や学習に対するニーズ、木材についての経験に応じた多種多様な活動にすることができます。



創った作品にはタイトルをつけさせましょう。愛着を高めることにつながります。

ステップ3 知る活動「知り、理解し、行動する」

活動のキーワード

木材利用、環境理解、くらしと文化、行動力、判断力、賢い消費者

ステップ3のねらい

- 木材の利用と環境の関係を理解させ、環境に配慮した行動のための判断力を養う
- 森林育成活動等への参画に積極的な姿勢を育む
- 木材製品を選択・利用できる、賢い消費者としての資質を高める

木材に親しみ、その特徴を理解した人は、木材を使ったり、生活に取り入れられたりすることに積極的になるでしょう。しかし、木材の利用や森林の伐採には常に負のイメージが付きまとい、森林や木材が好きな人や木材関係者でさえ、誤った認識を持っていることが少なくありません。

「ステップ3 知る活動」では、適正に管理された森林から伐採された木材を使うという、誰にでもできる行動が、森林の持続的管理や環境の改善に大きく貢献することを学ぶ活動です。

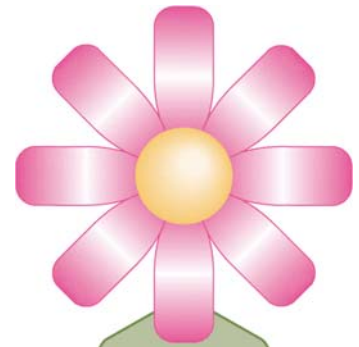
適切な統計資料や読み物、絵、図表などを使いながら、木材の利用と森林・環境の関係を理解させ、環境に配慮した行動のための判断力を養います。木材製品を選択・利用できる、賢い消費者としての資質や、森林育成活動等への参画に積極的な姿勢を育みます。

指導者として心がけたいこと

- 科学的なデータや確かな情報をわかりやすく提供する
- 木材利用と生活、環境との関係を具体的に学ぶ活動を取り入れる
- 実際に行動する力を育てる
- 講義形式の知識伝達の場にならないよう、活動を工夫する

自然材料としての木材は、我が国の風土の中で生活に欠かせない材料として扱われ、文化や伝統を築く上で重要な役割を果たしてきました。しかしながら、安価な石油化学製品や新素材の開発によって、生活の中での木材の位置づけは低いものとして扱われるようになっていきます。しかし、高温多湿な気候の我が国では、昔も今も木材の価値や利用の意義は高く、環境の改善に向けてはさらに利用を推進することが必要です。

「ステップ3 知る活動」では木材と環境、文化、くらしの関係について、科学的な知見や確かな情報をわかりやすい形で提供することにより、木材の利用と社会や環境の関係を理解した人間を育みます。



Step3
知る

Step2
創る

Step1
触れる



「ステップ3 知る活動」

は、木材の適切な利用や森林の健全化に向けて、現状や役割の理解、関心、意欲の向上とともに、具体の行動力を身に付けさせることを目標とした、「木育」の最後の段階として位置づけられます。



「木材利用が環境破壊につながるわけではない」、ということが理解されたとしても、それが具体的な行動につながらなければ「ステップ3 知る活動」のねらいが達成されたとはいえません。環境問題の解決には、知ることと同時に、「関心を高めること」や「積極的な姿勢」、問題に出会ったときの適切な「判断力」、「問題解決力」などを育てることを目標とし、それを「行動する」というさらに高い目標へとつなげることを意識する必要があります。木材利用と環境、生活との関係について気づくことをきっかけに、日々の行動や生活、環境への影響を具体的に学ぶ活動を取り入れることにより、木材製品を選択・利用できる人間、そして環境に配慮した行動ができる人間の素養が高まります。

「知る活動」を計画する際には、行動することによる変化の具体例（例えば、地球温暖化を防ぐ等）を示したり、市民として取り組む環境対策への参加意識や貢献の喜びなどを実感できる活動を取り入れたりすることが重要です。重要なことは、一つひとつの活動や生活の行動が、すべて何らかの形で環境と「つながり」を持っていることを示すことです。

「知る活動」は、どうしても座学的な知識伝達の場になりがちです。活動を豊かにするために、ワークショップ形式の活動や簡単な実験を含めること、映像資料などを活用すること、学習の場の設定を工夫することなどが大切です。言葉だけでなく、写真を用いたり、具体物を用意したり、場合によっては場所を屋外にすることも検討してください。受講者の「自ら学ぶ」意欲を醸成するためにどのようなコンテンツが必要か検討する必要があります。

「ステップ3 知る活動」では、木材に関する体験活動から、森林のはたらき、林業の役割など、さらなる好奇心を喚起する活動を体験させることにより、森林体験活動への参画はもとより、直接的・間接的を問わず、森林育成活動へ参画する人間が育まれることが期待されます。「木材で育った人たちが「木材を育てる活動」へと直接的・間接的に参加し、それを次世代につなげていく、そのメッセージの発信が「木育」の重要な役割になります。



活動の中で必要な資料を提示することは重要なことですが、受講者の知識、理解の状況、発達の段階に応じて、表現や構成の方法を変更することが重要です。低年齢層には、物語にしたり、絵本や紙芝居などにしたりして提示することも有効です。



リンク
「木育ノート」や紙芝居などの支援ツールが利用できます。(P39)



3. 「木育」のステップごとの活動目標

「触れる」「創る」「知る」の3つのステップは、「木育」の基本的な流れや、計画の方向性を示すものであり、絶対的な工程ではありません。例えば、受講者の木材に対する認識や理解度に応じて一部のステップを省略したり、ステップの順序を組み替えたりすることもできます。さらに、複数のステップを並行させた多様な活動の場を作ることによって、子どもから大人まで、幅広い受講者を「木育」の世界へとスムーズに誘うことができます。

「木育」を進めるにあたっては、受講者の年齢や知識、これまでの経験、さらに木材に対する認識・理解度にあわせて（例えば、幼児用、小中学生用、成人用等）対応することが適当と考えられます。次に示す表を参考にしながら、どのような活動がどの年齢層に適当か十分に検討してください。



「木育」のステップと発達段階ごとの目標と活動例

発達の段階	触れる（木と出会う）		創る（木の良さに気づく）		知る（木への理解を深める）	
	目標	活動内容例	目標	活動内容例	目標	活動内容例
幼児	1) 木材の良さを、五感を通して体感する 2) 森や樹木に好奇心を持つ	○木材に触れる ○木でできたおもちゃを使う、遊ぶ ○森や樹木で遊ぶ ○木玉のプール遊び	1) 木材、枝、葉などを使って、楽しく創作活動ができる 2) 基本的な道具を使い、木材の感触を楽しむ	○森の恵みを使ったおもちゃづくり ○丸太の輪切り体験 ○丸太のコマづくり ○かんな削り体験	1) 木材が身の回りでもたくさん使われていることを知る 2) 木材と森のつながりを知る	○物語を読んだり、紙芝居を見る ○苗木を育てる
小学生	3) 様々な種類の木材に触れ、その質感の違いを知る 4) 木材と他材料を比較し、その違いがわかる 5) いろいろな種類の樹木に触れる 6) 森の樹木、生き物に触れ、森林に対する関心を高める	○木材の色や木目を使ったお絵かき ○木材の音あそび ○広葉樹材と針葉樹材の比較 ○金風、ガラス、プラスチックとの比較 ○木の葉・木の実集め ○地域内の巨木見学 ○きのこや山菜の採集 ○森の基地づくり ○ピオトープづくり ○木登り体験	3) できあがった作品に愛着を持ち、身近な人に説明できる 4) 道具を正しく、安全に使う方法を知る 5) 木材の特徴と個性を活かして作品にまとめ、鑑賞する 6) 創る活動により、手先の器用さや段取り力を高める	○組み立てを中心とした簡単な作品づくり ○切断した丸太を使った作品づくり ○木材に関する昔あそび体験 ○手工具を使った身近な製品づくり ○彫刻や版画など ○十分に加工された材料を使ったものづくり	3) 木材の様々な性質を体験的に理解する 4) 木材がその性質を活かして使われていることを知る 5) 人間の生活と木材や森林の関わりについて知る 6) 森林に公益的機能があることを知り、人工林と天然林の違いがわかる	○身の回りの木材製品を探す ○木材と森に関するクイズ ○木材のおもしろ実験 ○パワムクーヘンづくり ○森林体験ツアー ○森林学習施設の見学 ○火おこし体験
中学生	7) 日本の木工職人の卓越性を知り、伝統技術に対する関心を持つ 8) 身近な森林での活動を通して、森の豊かさに触れる	○木工職人等による実演、実技指導 ○地域内の木の文化財見学 ○里山内でのレクリエーション活動	7) 創る活動を通して、問題解決の方法や手順を理解する 8) 木材の特徴や道具の特性を理解し、創る活動を進められる	○自分で設計から製作まで行うものづくり ○板材や角材など、素材から加工するものづくり	7) 木材の基本的な性質について、簡単な実験によって理解できる 8) 森林資源の現状を知り、保全活動や林業の役割を理解する	○木材細胞の観察や簡単な強度実験 ○森林ボランティア活動への参加 ○林業体験（職業体験活動）
高校生	9) 様々な木材利用技術に触れ、環境改善に向けた可能性を知る 10) 木材および森林と日本の風土、文化、伝統との関わりが理解できる	○木材加工施設の見学 ○地域の木材関連研究施設の見学 ○木材と歴史に関わる講演	9) 創る活動を通して、問題解決力や創造力を高める 10) 自ら安全管理を行い、木材の特徴を活かした創作ができる	○地域やいろいろな施設のためのものづくり ○グループによるデザイン活動 ○木工機械や合板などの木質材料を活用したものづくり	9) 木材の性質を科学的根拠に基づいて理解できる 10) 確かなデータに基づいて、森林と木材利用の関わりを知る	○森林や樹木の二酸化炭素吸収量や蓄積量の計測実験 ○割り箸などを使ったブリッジコンテスト ○森林や木材利用に関わる調べ学習
成人・一般	11) 木材製品を生活に取り入れ、楽しむ、味わうことができる 12) 木材の文化、芸術作品、伝統技術等に関心を持ち、その価値を理解できる 13) ルールを守り、充実した余暇活動を森林で行うことができる	○工芸品の生産地や木の文化財、芸術作品巡り ○木構造など伝統技術に関する講演 ○ネイチャーゲームや森林の散歩など ○住まいづくりのための森林見学ツアー	11) 木材を活かした自分らしい生活をデザインすることができる 12) 生活環境の豊かさを実現するために、木材を活用することができ 13) 様々な工具、機械を安全に活用し、さらに維持管理することができる	○木材を使ったDIYやリフォーム活動 ○家族や子どものためのものづくり ○丸のこ盤などの木工機械を使用した大型木製品づくり ○木材を使った美術、工芸の活動	11) 木材利用と森林あるいは環境との関わりについて理解し、適切な評価が下せる 12) 環境に配慮した賢い消費行動をとることができる 13) 森林・環境の改善に向けて、積極的に行動する	○木材利用と環境問題に関する講演 ○カーボンオフセットや「見える化」に関する勉強会 ○間伐体験への参加や里山の整備活動